

# 交通結節点整備及び デジタル活用について

---

## ■てだこ浦西駅のポテンシャル

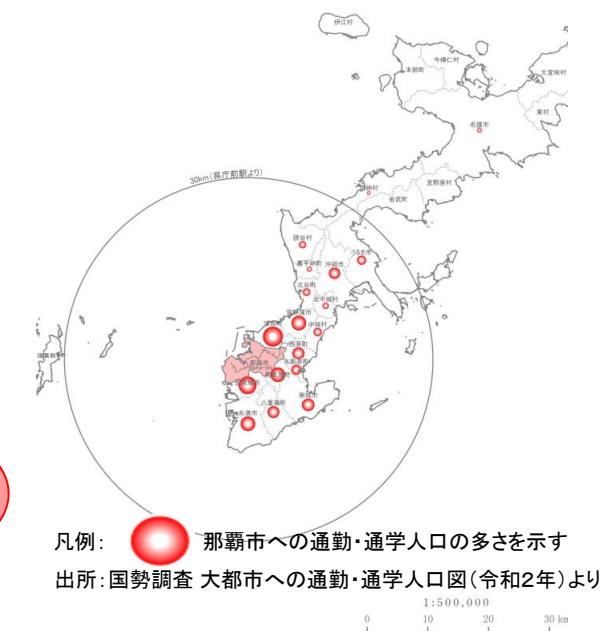
### ■駅周辺の開発

- 駅の隣接エリアでまちづくり(区画整理事業)が進展中。  
生活機能(買物、医療、教育等)の立地  
浦添市の既成市街地とも接続
- 駅ナカや駅周辺の活用可能地(駅前広場・高架下等)の存在



### ■中部・東海岸エリアとの接続

- 道路整備により、西原町方面との接続向上。西原町でもまちづくりが進展中。
- IC整備により、沖縄自動車道を通じた中部エリアとの接続向上



## ■今後の視点

- 駅(交通拠点)周辺が地域住民の交流拠点となり暮らしの質を向上させる拠点
- 那覇都市圏と中部・東海岸エリアとを結ぶ結節点
- 生活商業機能・2次交通機能を備えた、人の集まる交通結節点へ

## ■参考事例:南町田グランベリーパーク(東京都)

- ✓ 「南町田グランベリーパーク」は2019年11月にまちびらきした町田市内に位置する地元住民・観光客にとって生活・情報発信・価値共創拠点。
- ✓ 都市基盤、都市公園、商業施設、都市型住宅を備え、地域住民にとっての活動拠点、観光客にとっての来訪の目的となる地域・まちづくりを目指し、東急株式会社と町田市が官民連携で一体となって推進してきた施設。
- ✓ 2015年より始まった「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」により再整備されたまちであり「まちのぜんぶがパークになる」というコンセプトのもと整備。地域住民にとっての生活・文化交流拠点としての側面だけでなく、地域の防災拠点としての役割や景観についても意識してまちづくりを行っている。



▲屋外イベントスペース

出所: 東急株式会社HPより



▲交流スペース及び鶴間公園

## ■参考:高架下の活用事例

- ✓ 飲食店・情報発信拠点 OSAKA FOOD LAB 梅田駅～中津駅  
→食に特化した情報発信拠点となっており、交流を生み出している事例
- ✓ 商業施設・ホテル SEEKBASE 秋葉原駅～御徒町駅  
→周辺施設への回遊を促すコンセプトで、高架下のデザインを活用して展開されている事例
- ✓ 高架下回遊空間・学生寮 東小金井駅～武蔵小金井駅  
→高架下を有効に活用し、住民や学生の回遊空間を形成し、にぎわいを形成している事例



▲OSAKA FOOD LAB 施設外観

出所:OSAKA FOOD LAB HPより



▲SEEKBASE 施設外観

出所:ジェイアール東日本都市開発 HPより



▲東小金井駅～武蔵小金井駅高架下のコミュニティスペース

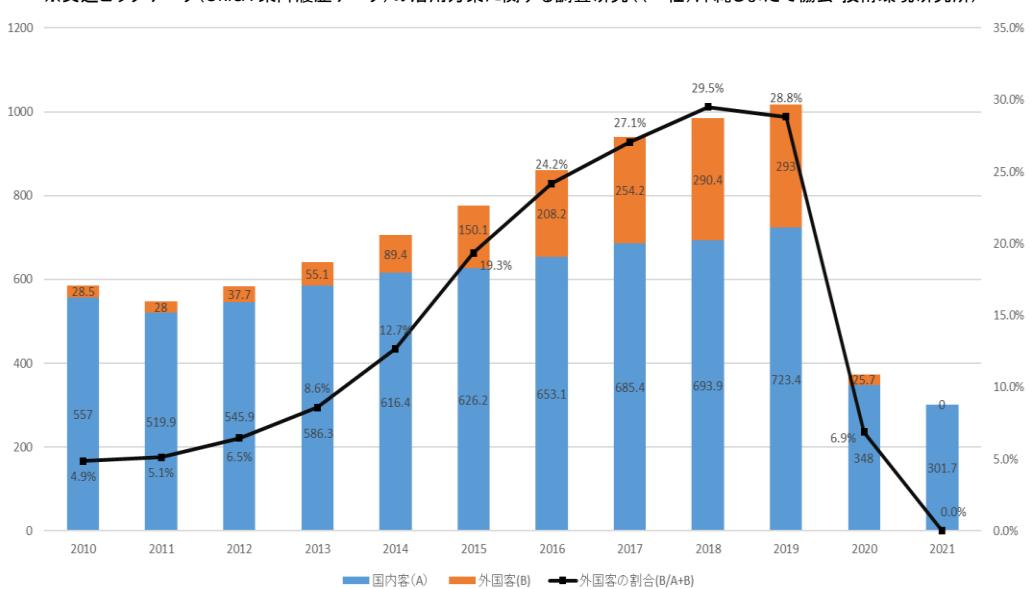
出所:JR東日本 HPより

## ■交通デジタル化の現状

### ■利用者の多様化

- 沖縄の公共交通利用におけるOKICA利用率は約4割(※)、観光客のキャッシュレス利用率は1割未満。
- インバウンド客の割合はコロナ禍以前まで年々増加しており、今後も増加が予想される。国内客も、Z世代など運転を好まない世代へ。

※交通ビッグデータ(OKICA 乗降履歴データ)の活用方策に関する調査研究((一社)沖縄しまたて協会 技術環境研究所)



### ■データ活用

- OKICAデータ(乗降データ等)、バスロケデータ等は存在
- 一方、左記の利用率、活用に際する費用・許諾等により、継続的・積極的な活用に向けては課題

#### 交通手段の決済方法(国内観光客)(R1)

	現金	キャッシュレス	両方
レンタカー	34.7%	64.4%	0.9%
モノレール※	91.1%	7.1%	1.8%
路線バス	97.1%	2.9%	0.0%
一般タクシー	87.4%	9.2%	3.4%

#### 交通手段の決済方法(外国人観光客)(R1)

	現金	キャッシュレス	両方
レンタカー	40.1%	56.4%	3.5%
モノレール※	96.3%	0.9%	2.8%
路線バス	97.2%	1.4%	1.4%
一般タクシー	93.9%	3.4%	2.7%

※本調査は、モノレール決済システムの「suica」導入前に実施したもの。

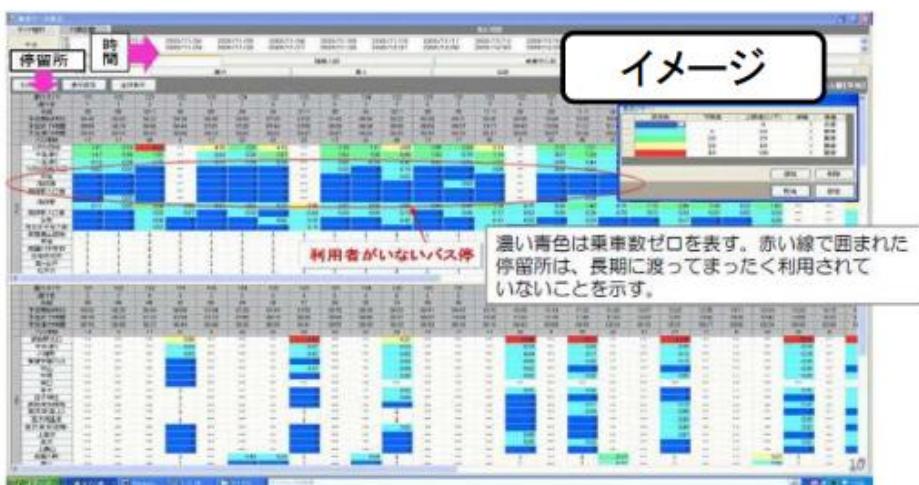
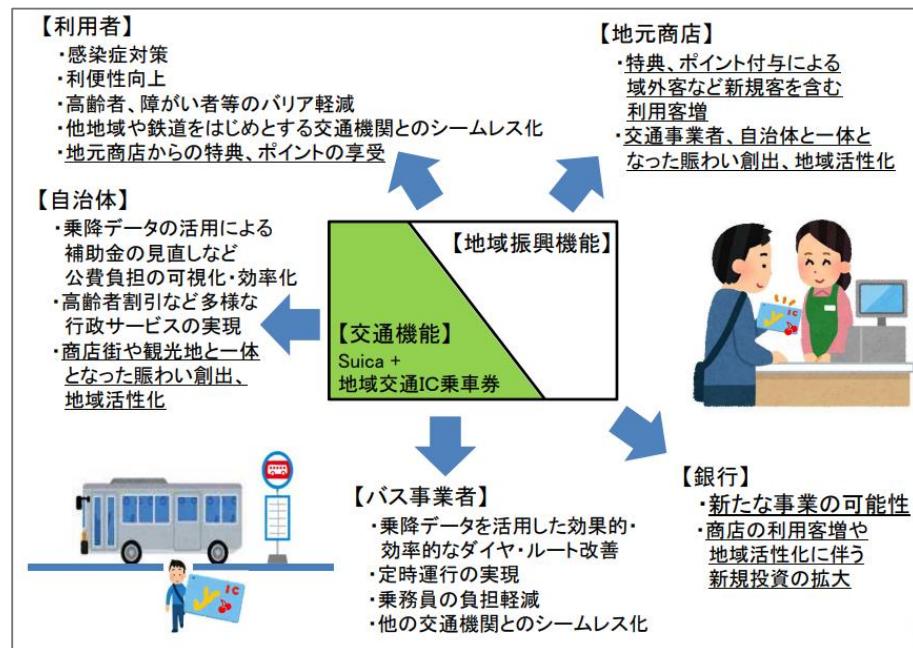
出所:「令和元年度 県内キャッシュレス関連調査」(沖縄県)を元に作成

## ■今後の視点

- 沖縄県内外の観光客の利便性を高めるため、多様な利用者への対応
- 利用拡大、データ活用等の観点から、事業者個社の取組にとどまらず地域としての導入戦略
- そこで得られたデータ等を地域で共有、交通サービス改善、生活環境向上、観光・地域活性化への貢献。

## ■参考事例① 地域共通ICカードの事例（山形県:Cherica(チェリカ)）

- ✓ 地域公共ICカード導入の理由は、令和3年に交通計画を策定した際に、移動のシームレス化とキャッシュレス化を目標に掲げており、その達成のためSuicaと連携した交通ICカードを導入したもの。それにより、乗降データの活用による補助金の見直し、公費負担の可視化・効率化、高齢者割引など多様な行政サービスの実現、商店街や観光地と一体となった賑わい創出、地域活性化を企図している。
- ✓ データ利活用については、路線バスやコミュニティバスの路線の再編にデータを利活用している。データを用いてルートやダイヤの再編が容易になるとともに、地域沿線への説明もわかりやすく行うことが可能である。



▲交通機関におけるデータ利活用イメージ

▲各ステークホルダーへ与える影響

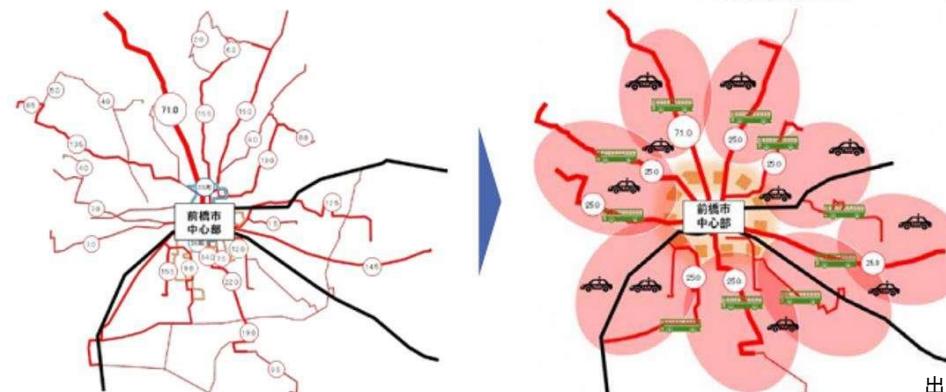
## ■参考事例② 地域共通ICカードの事例（前橋市）

### ①交通事業者間連携の取組み(データ活用)

R4.3 6社全路線に交通系ICカードを導入により、乗降データの取得が可能となった。  
6社一体的に乗降データを可視化、その他の情報を加えて分析するための基盤を構築



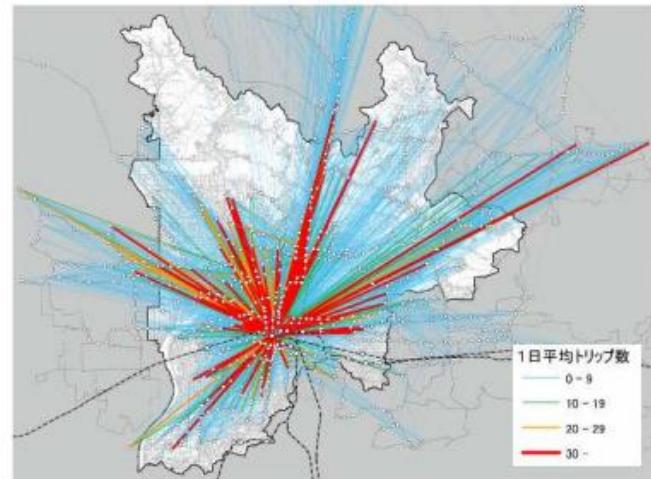
地域連携ICカード「nolbe」  
→ 乗降データの取得が可能となった



データに基づき各モードを超えた一体的な  
移動サービスに転換していく  
(ネットワーク再編、運賃サブスク等)

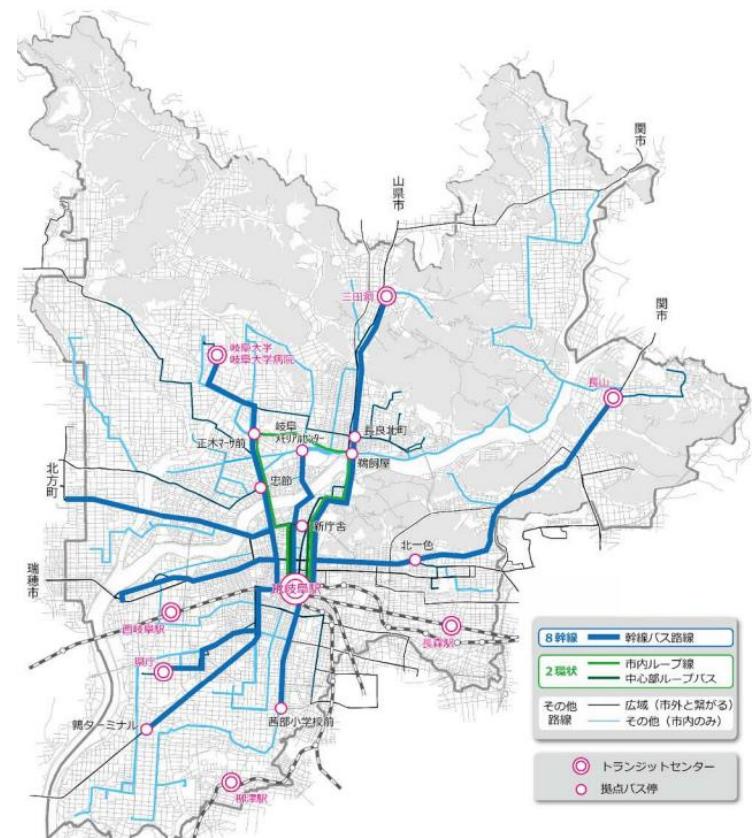
## ■参考事例③ 交通ICカード「アユカ」のデータ利活用の事例（岐阜市）

- ✓ 岐阜市では、バス停間ODデータを活用しながら、8幹線+2環状を骨格とした地域全体の公共交通網の効率化と利便性の確保を目指している。
- ✓ 交通系ICカード「アユカ」のデータを用いて、バス停区間ごとの利用者数を集計することで、利用者数が大きく変化する分岐点となるバス停を把握し、バス路線再編の検討に活用している。再編された路線イメージでは、JR岐阜駅をハブターミナルとした長大路線の分割の検討がされている。
- ✓ アユカ(ayuca)は岐阜バスグループが発行するバス車内の運賃精算が可能な交通ICカードだが、2026年に廃止され、2024年から全国相互利用のICカードが岐阜バスで使えるようにする予定。



▲活用されたデータのイメージ

出所：国土交通省「データを活用したまちづくりの事例」、「岐阜市地域公共交通計画」（令和3年）より



## ■参考事例④ タッチ決済の事例（南海電気鉄道）

- ✓ 南海電気鉄道では、今後のインバウンド需要への対応のため、タッチ決済を導入。
- ✓ クラウドサービスメリットを活かした運賃割引キャンペーンを展開しており、地域を超えた活用事例としては、大阪と福岡で相互誘客のキャンペーンを実施している。



▲タッチ決済改札機

出所: 南海電気鉄道HP、プレスリリースより



## ■参考事例⑤ タッチ決済の事例（小田急電鉄）

- ✓ 小田急電鉄では、インバウンドを含めた観光客をターゲットとし、箱根全域の決済サービスの導入による利便性の向上を通じ、滞在時間を充実したものとするため、タッチ決済を導入。
- ✓ 今後、タッチ決済におけるデータと、比較的分析・収集が進んでいるQRにおける顧客データ等を紐づけての運用を検討している。



▲タッチ決済改札機



▲箱根ロープウェイ



▲箱根海賊船

出所：小田急電鉄HP、プレスリリースより